



泉永寺

(せんえいじ)



<概要>

双葉校区の南端付近に、石手川と小野川が合流するところがあり、その石手川の少し上流に、泉永寺橋がかかっています。その橋の北にある土手を下りに下りていくと、泉永寺があります。

雄郡神社の前を通り、今の和泉公民館を経て泉永寺の前に出る道は、かつて大洲街道とよばれ、昔の幹線道路でした。泉永寺から出合に向けて道が続いていたそうですが、耕地整理や住宅建築などで昔の大洲街道の名残はほとんどありません。



<小野川刀淵水門開祖之碑>

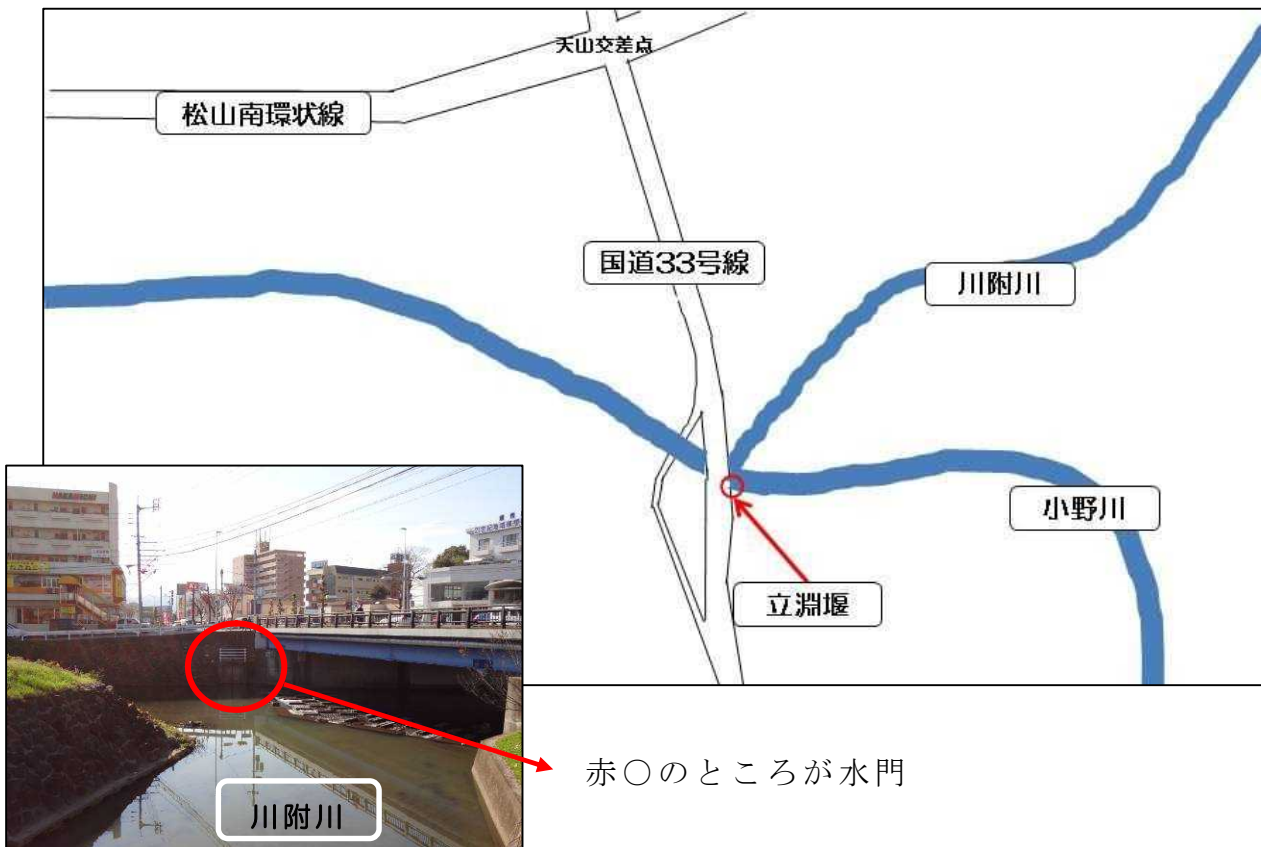
泉永寺の境内にあるこの碑は、明治25年に、森六次郎が建てたと記されています。小野川から水を引いて用水をもたらした森宗勘は、森六次郎の祖先にあたるようです。小野川から水を引いた森宗勘の功績を忘れないようにするために、この碑を作ったということが、裏面に彫ってあります。



<森宗勘が行った一つ目の工事>

江戸時代の話です。森宗勘は、自分の住む和泉村の人たちが水に困っているのを見て、小野川から水を引くことを考えました。しかし、作物を育てるために必要な水は、命にかかわる大切なものでした。小野川の水を使う権利を持つ人たちが、簡単に水を分けてくれるはずがありません。

そこで、宗勘は、川附川（かわつけがわ）が小野川に合流するところ（立淵あるいは縦淵）から水を引くことを考え、そこから水を流すための水路の設計図を作ることになりました。しかし、明るい昼間に測量をしていたのでは、水の権利を持っている人たちにじゃまをされてしまいます。そこで、暗い夜になってから、ろうそくの灯りを頼りに測量をしました。





縦淵川の水門

数年かけて水路を決めると、目印として、そこに水草の種をまいていきました。すると、そこが昔の水路の後のように見えてきました。4年余りかかって、そのような準備をした後、宗勘は、松山藩主加藤嘉明に、用水路を作って小野川から水を引くことを願い出ました。もちろん水の権利を持っている人たちは反対しました。ところが、宗勘が水草の種をまいた所が、昔の用水路の後のように見えたので、新たに用水路を作るのではなく、昔の用水路を復活させるということになり、反対した人たちも納得せざるを得ませんでした。こうして、小野川の水を使う権利を認められたのです。

そして、万治2年（1659年）から、和泉村民みんなで工事を行って用水路を作り、数年かかって完成し、刀淵川（たちぶちがわ）と名付けたそうです。和泉村では多くの水が使えるようになり、米のたくさんとれる地域になったということです。

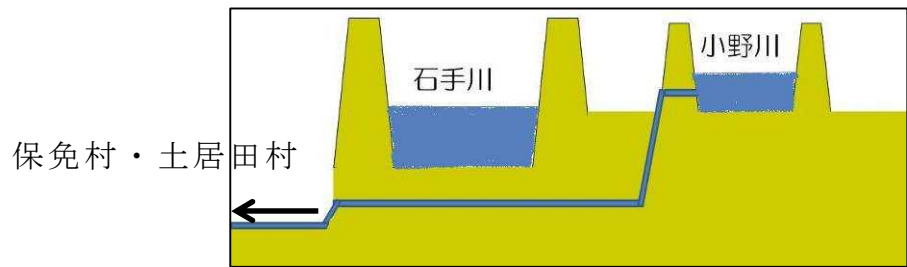
※ 小野川刀淵水門開祖之碑に記してある「刀淵川」は、「立淵川」あるいは「縦淵川」（たてぶちがわ）と記している資料もあります。

<森宗勘が行った二つ目の工事>

刀淵川ができた後、保免村や土居田村から宗勘に依頼がありました。自分たちの村でも田に引く水が少なくて困っているので、水を分けてほしいというのです。しかし、小野川と保免村や土居田村の間には、石手川が流れており、簡単なことではありませんでした。

いろいろと考えた結果、石手川の川底の下に穴を掘って、水を流すことにしました。とても大変な工事で、何年もかかったそうですが、その水路のおかげで保免村や土居田村にも水が流れるようになり、お米がたくさんとれるようになった

ということです。この長い水路は、「百間樋（ひゃっけんどい）」あるいは「宗勘樋」と呼ばれています。



※ 小野川刀淵水門開祖之碑には、森宗勘が石手川の川底に水路を掘ったとは記されていませんが、石井村史や和泉郷土誌などには、この川底を通る水路は森宗勘が作ったと記されており、有力な説となっています。

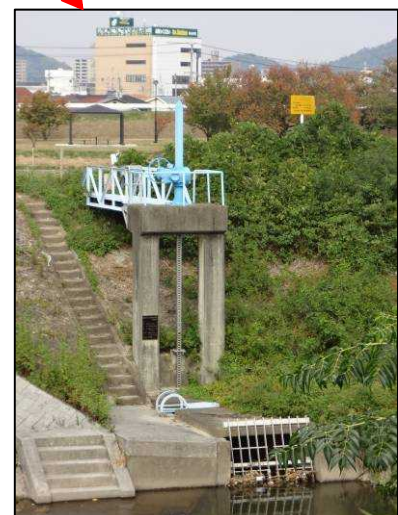
※ 赤い点線のところが、川底を通る水路の場所です。



泉永寺横の水門



石手川土手の水門



小野川からの取水口

<追遠記念碑>

泉永寺の境内には、「小野川立淵水門開祖之碑」と「追遠記念碑（ついえんきねんひ）」があります。「追遠記念碑」の裏には、明治2年に起きた和泉村と朝生田村との水争いのことが記されています。

表の字「追遠記念碑」は、秋山好古が書いたと記されています。



<水争い>

和泉村の隣にある朝生田村は、水を手に入れることが難しい所でした。役人であった菅沼長左エ門（すがぬまちょうざえもん）は、余った水を朝生田村に使わせるよう、かねてから和泉村に依頼しており、そのための水路も完成していました。明治2年5月の干ばつの際にも要請してきましたが、和泉村ではその頃まだ田植えが終わっておらず、水を分けることは到底考えられませんでした。そこで、夜に60人余りの村民が、朝生田村に通じる水路をこわしてしまったのです。このことを聞いた役人は、和泉村の庄屋など9人を捕えました。捕えられた9人は、牢に入れられたりしたため、たいへんな苦勞をしたそうです。

それから60年ほどたった昭和2年に、その9人の霊を慰め、先人の徳を忘れないようにするため、追遠記念碑が建てられたそうです。

参考文献

「和泉郷土誌」（昭和62年 和泉郷土誌編集委員会）

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）

「ふるさと松山学 凜として立つ」（平成23年 松山市教育委員会）